

第4回： 有機ハロゲン化合物による地下水汚染とその制御対策

開催日： 1984年6月14日～15日 / 会場： 「自動車会館」東京都

開催趣旨： 昭和58年8月環境庁はわが国において初めて地下水汚染調査結果を公表し、特にテトラクロロエチレンやトリクロロエチレンなど有機ハロゲン化合物の汚染が指摘されました。これら化合物の地下水汚染問題は、厚生省が水道法に定める水質基準にこれら物質を加えたことが示すように深刻な問題となりつつあります。

当協会では、本問題の解決に寄与すべく努力しておりますが、有機ハロゲン化合物の地下水汚染問題を多角的にとらえ、子恩後の解決指標を得るためにセミナーを開催いたすことになりました。

特にこのセミナーでは、有機ハロゲン化合物の地下水中の胴体や制御対策のほか、それらの生態影響や最近注目されている毒性指標の1つである変異原性試験とその評価方法なども組み入れました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 地下水汚染と有機ハロゲン化合物（佐谷戸安好／国衛生試）
- 有機ハロゲン化合物の物性とその用途（浦野紘平／横国大・工）
- 有機ハロゲン化合物の生体への影響（濱田昭／昭和大・薬）
- 有機ハロゲン化合物の分析方法とモニタリング（安藤正典／国衛生試）
- 地下水の水文学的動態と評価（村岡浩爾／国公害研）
- 地下水汚染対策の考え方（杉戸大作／環境庁・水保局）
- 汚染した地下水の処理技術（眞柄泰基／国公衛院）
- 汚染物質の環境への侵入径路（中杉修身／国公害研）
- 変異原性試験方法およびその評価（梅田誠／横浜市大・木原生研）
- 水域環境汚染物質の変異原性（松井三郎／金沢大・工）